

## 紀要委員会委員

亀山 幸吉  
※ 小杉 誠司  
佐藤 純子  
田村 恵一  
長谷部 比呂美  
前 正七生  
三田寺 裕治  
荒木 由紀子  
高野 良一  
(※ 委員長)

## 編集後記

最近ちょっとした出来事があって、30年以上前に大学院の指導教官との議論を思い出しました。その当時私が所属していた理論系の研究室では、大学院生が研究室の研究課題を越えて勝手に研究テーマを決めていて、研究室としてのまとまりがありませんでした。他の研究室では指導教官が院生に研究テーマを与えて、研究成果をあげていました。私は生意気にも先生に「院生が勝手にテーマを決めて研究するのはおかしいのではないか」と言ったことがありました。その時の先生の返答は、「研究は自由でなければならない」というものでした。当時の私は先生のこの言葉を理解できませんでしたが、最近私は先生の言っていたことが正しいと思うようになりました。なぜだろう、知りたいという欲求が研究の出発点であり、それがなければ研究は持続できないし、自分が納得した結果もだせないと思います。広く社会を見渡してみても、給料をもらいながら自由に研究ができるのは大学の教員だけである。大学の教員はこのことに対して自覚的でなければならないと思います。

(S. K記)

### 淑徳大学短期大学部研究紀要 第56号

発行日 平成29年2月25日

編集発行 淑徳大学短期大学部 紀要委員会

〒174-8631  
東京都板橋区前野町6-36-4  
電話 03-3966-7631(代)  
FAX 03-3558-7990(代)

印刷 株式会社 白鷗社  
〒170-0002  
東京都豊島区巢鴨1-14-10  
電話 03-5977-8761(代)